

## 議事要旨

会議名	第6回「(仮称)はちおうじ未来デザイン2040」懇談会
日時	令和4年(2022年)2月7日(月)午後7時00分～8時35分
場所	オンライン(Microsoft Teams)
出席者氏名	参加者 拓殖大学 教授 新田目 夏実 氏 東京都立大学 教授 市古 太郎 氏 東京都立大学 准教授 杉原 陽子 氏 法政大学 教授 淵元 初姫 氏 明星大学 教授 河合 美香 氏 八王子市町会自治会連合会 副会長 (八王子市町会自治会連合会推薦) 尾寄 敏夫 氏 八王子商工会議所 常議員 (八王子商工会議所推薦) 加藤 正道 氏 NPO 法人八王子子ども劇場 代表理事 (八王子市民活動協議会推薦) 浅野 里恵子 氏 東京工科大学大学事務局学務部 部長 (大学コンソーシアム八王子推薦) 豊嶋 信一 氏 こども食堂ふくろうはうす 代表 (八王子市社会福祉協議会推薦) 細田 明菜 氏 みなみ野小中学校学校運営協議会 代表 荒井 嘉夫 氏 八王子にほんごの会 役員 宮武 茜 氏 高尾の森自然学校 代表 梶浦 正人 氏 市民参加者 下村 麻子 氏 市民参加者 小幡 未紀 氏
	事務局
欠席者氏名	八王子障害者団体連絡協議会 代表 杉浦 貢 氏
議題	(1) 長期ビジョンにおける取組の内容について ア 重点テーマ及び取組方針 (ア) 重点テーマ② 未来へのつながりづくり (イ) 重点テーマ③ 未来に続く都市づくり
公開・非公開の別	公開
非公開理由	—
傍聴人の数	なし
配付資料名	資料1:「第5回懇談会における意見一覧」 資料2:「長期ビジョンにおける取組の内容について(後半)」

会議の内容  
( 1 )

次第1 開会

【事務局】

事務局より、当日参加者の確認及び配布資料の確認。

<欠席者:1名>

八王子障害者団体連絡協議会 杉浦 貢 氏

<資料>

資料1:「第5回懇談会における意見一覧」

資料2:「長期ビジョンにおける取組の内容について(後半)」

次第2 第5回懇談会議事要旨

第5回懇談会議事要旨の公開時期、第5回懇談会でいただいた意見一覧について事務局より説明。

次第3 議題

1 「重点テーマ及び取組方針」について事務局より説明

<事務局説明要旨>

「みんなで目指す2040年の姿」の実現に向け、令和12年度(2030年度)までに重点的に取り組む内容を定めた。重点テーマは①未来の主役づくり、②未来へのつながりづくり、③未来に続く都市づくりの3つである。

本日は、重点テーマ②③及び取組方針について、御意見をいただきたい。

2 意見交換

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

まず、重点テーマ②及び取組方針に関して御発言いただきたい。

「テーマに込めた思い」に、複数のキーワードが挙がっている。ここから、地域社会における住民間のつながりのみならず、団体間のつながりをもつくることを事務局が意図していることが読み取れる。

【高尾の森自然学校代表 梶浦正人 氏】

取組方針に「日本遺産をきっかけとして、桑都文化を磨き上げ、地域活動や地域の産業・経済の活性化を図る」とあるが、具体的にはどのようなことをイメージしているのか。

【事務局】

日本遺産の認定に留まらず、まちづくりにおける景観形成の取組や MICE 推進など、文化財とその周辺施策と連携することで、地域活性化を図れるのではないかと考え、示した。

【八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏】

その後に記載のある「観光まちづくり」との繋がりが理解できない。MICEで訪れた人たちを観光に結び付けるということか。それとも、観光は観光として切り離して考えているということか。

【事務局】

前者を意図しており、MICE を目的に市外から訪れた方々を対象として、観光資源を活用した街歩きや小旅行の機会を提供することを想定している。その中で、日本遺産とつながるというイメージを持っている。

会議の内容  
( 2 )

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

ここでの「つながりづくり」は、住民間のつながりに留まらず、団体間や経済でのつながりをも想定している。この点について、少し違和感がある。

【八王子にほんごの会役員 宮武茜 氏】

南大沢地区の地域づくり推進会議では、参加者の中から、「何のために話し合いをしているかわからない」「市が決めたレールに乗っているように感じる」という声も上がっている。流山市ではキャッチフレーズを用いて子育てのしやすさをアピールしているが、八王子市でも今後何か魅力を発信する取組はされるのか。

【事務局】

市内の4つの地域づくり推進会議では、地域で活動する方々が集まり、魅力や課題を共有することで、参加者に一体感が生まれ地域の実情に合ったまちづくりが進むことを期待している。こうした地域づくり推進会議が発展していけば、八王子市全体の魅力にもつながると考える。今後は地域の方々だけではなく、市の職員も一緒になって進めていきたい。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

やむを得ないことかもしれないが、「市が決めたレールに乗っているように感じている住民は多いのではないか。今回の長期ビジョン策定を通じて、市民と市役所が一体となって、何か新しいものを生み出していく契機になればよい。

【明星大学教授 河合美香 氏】

取組方針イについて、前半は文化や地域活性化を図るとされているが、後半は観光まちづくりにつながっている。「文化」と「観光」は異なるが、双方を指しているのか。八王子市は今後、「観光」をキャッチとして取り上げるのか。そうであれば、より強調する必要がある。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

1文で書かれているが、前半の「日本遺産をきっかけとして、桑都文化を磨き上げ」で1文、以降の後半で1文と、2文に分けた方がよいのではないか。

【事務局】

前半と後半で2つの内容を示している。観光に特化し進めていくのではなく、地域において文化継承や人と人の交流を振興していきたいという思いを込めて「観光まちづくり」とした。

3 「重点テーマ及び取組方針」について事務局より説明

<事務局説明要旨>

重点テーマ③及び取組方針について、御意見をいただきたい。

4 意見交換

【八王子市町会自治会連合会副会長 尾寄敏夫 氏】

取組方針アについて、「自助・互助・共助の連携強化を図る」とあるが、なぜ「公助」が入っていないのか。

また、「自然や先端技術を活用し、災害の脅威から市民の命を守る強靱なまちづくりを推進」とあるが、「自然を活用した強靱なまちづくり」とは具体的に何をイメージしているのか。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

「公助」が欠けているという御指摘は以前の懇談会でもいただいたかと認識しているが、確かにそうかもしれない。

【事務局】

一点目の「公助」に関する指摘については、前半の「自助・互助・共助」は地域を想定しており、まちづくりのハード・ソフト両面から行政が取り組む内容を示している後半の文章が「公助」を意味している。

二点目の「自然」に関する指摘については、護岸工事や治水対策で緑を活用しその効果を発揮するという意味合いで示している。

【八王子市町会自治会連合会副会長 尾寄敏夫 氏】

御説明の趣旨は理解できるが、「自助・互助・共助の連携強化」の文章のみを見ると「公助」が抜けているという意見に捉えられやすいと考える。

また、「自然を活用した強靱なまちづくり」は、意図を説明しきるのは難しいかもしれないが、言葉足らずな印象を受けた。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

護岸や山林の治水効果の話があったが、使い続けるためには手を入れる必要がある。文脈が少しずれている印象を受ける。

「自助・互助・共助及び公助の連携強化」のように、「公助」は明示した方がよい。また、「自然を活用した強靱なまちづくり」についても人によっては理解が難しいのではないかと考える。

【八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏】

事務局から「防災訓練の参加率が低い」と説明があったが、防災意識向上のためには、町会単位で開催していた従来の一般的な出前講座ではなく、今後は、乳幼児やペットがいる家庭など、エリアを拡大した上でターゲットを絞って、災害時の行政の取組、家庭でできる備えなどについて紹介する講座を開催するのはどうか。個々のケースの疑問を解消したいというニーズは高いと考える。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

乳幼児やペットのみならず、高齢者や外国人などの災害弱者にターゲットを絞るのも有用と思われる。施策につながるコメントであり、大変有意義である。

【八王子にほんごの会役員 宮武茜 氏】

事務局から「産学官で連携していきたい」という話があった。それに関連して、地域の人や企業、学校で連携して防災訓練等を実施した場合に補助金が出るようにしていただきたい。また、外国人防災リーダーを養成する講座を実施いただきたい。防災士の資格取得時に補助金を出している自治体もあるので、八王子市もぜひ検討をお願いしたい。

【東京都立大学教授 市古太郎 氏】

取組方針アについて、尾寄氏が仰った「自助・互助・共助の連携強化」に関する話は賛成であり、このままでは間違ったメッセージを発信してしまうのではないか。「自助・互助・共助」を外して、「家庭と地域の防災力強化を図る」とした方がまだ適切である。

「自然」に関する話についても、事務局が仰っていたのは、グリーンインフラ含め「技術」の話であり、「先端技術」に含まれるということに過ぎないのではないか。

「強靱な」という言葉もここで使ってよいのか疑問である。単に「強い」という印象を言葉からは受ける。粘り強さというニュアンスから、「靱性のある」の方がより適切ではないか。「レジリエンス」により近い印象もある。

また、取組方針ウについて、「自然環境と都市機能が調和した」「再生可能エネルギー」とは、具体的にどういうことか。

会議の内容  
( 4 )

【事務局】

取組方針ウの「再生可能エネルギー」に関する御指摘については、自然環境と都市機能が調和した都市の実現に向けて取り組む内容の一つとして、「再生可能エネルギー」の導入を記載させていただいた。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

重点テーマ③に限らず、それぞれ事務局の思いが詰まっている気がしているが、それが文章では伝わりづらくなっている。

【八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏】

取組方針イについて、「新産業分野の事業創出や既存産業への支援」とある。

まず、「既存産業への支援」については、技術力を生かした製品開発による差別化に向けた支援等、ニーズに対応した形で進めていくべきである。

また、「新産業分野の事業創出」については、八王子市は交通の要衝であることから、物流拠点の誘致が重要と考えており、促進施策を考えていただければと思う。

【東京都立大学教授 市古太郎 氏】

取組方針アの「自助・互助・共助の連携強化」について、連携強化の具体案が示されていれば合致すると考える。

先程、宮武氏より、災害時における外国人との連携の話があった。それは言い方を変えれば子育て活動や地域福祉の日常的な活動等が災害時においても緊密な関係を持っていると言える。日常的な活動と地域防災の取組に関する連携を市としてサポートするというのであれば理解できる。

【みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏】

前回の資料から読み返してみると、「未来を拓く原動力」や「変革のキーワード」では、新たな取組をしていくといったように記載のトーンが高い印象を受ける。一方、重点テーマ①～③は、既存の言葉や価値観の枠組みにとらわれており、未来の突破口が見えてこない。思いが不完全燃焼しているのではないか。

【法政大学教授 淵元初姫 氏】

本日の資料から桑都文化をはじめ、様々なコンテンツが八王子市にあることが分かった。それらを通じて誰がどのように盛り上げていくか、また着地点もある程度分かったが、どこでやるのか、場所のイメージが湧かないと感じた。未来の突破口を見出すにはみんなが集まれる場所と、ある程度の活動の蓄積が必要であると考えている。「こういった場所で、こんな活動をします」といったイメージがあるとよい。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

重点テーマ③は、「未来に続く都市づくり」に必要な要素として防災、産業、環境の3つを選び、取組方針に設定したと理解しているが、相違はあるか。

【事務局】

基本的にはその認識であるが、取組方針イについては、「交通」も含まれており、一部、都市計画もイメージしている。

会議の内容  
( 5 )

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

防災、産業、環境の3つには賛成であるが、「交通」は必要か。2040年に向けた課題は様々に山積する中で、より精査した方がよい。例えば、2040年は後期高齢者人口が最大となる見込みである。福祉産業では、介護人材をどのように獲得するかが大きな課題である。未来志向の計画であり、あるべき未来を論じるという考え方は重要であるが、2040年に向けて解決すべき課題もあるため、取組方針に少しでも落とし込む必要があるのではないか。

また、重点テーマ②の取組方針アについて、「地域が主体的に支えあえる」とあるが、主語は「地域住民」か。

【事務局】

重点テーマ②の取組方針アに関する御指摘については、地域住民が中心となるが、地域で活動する様々な団体の集合体も含めて「地域」を意味している。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

「地域住民」では意味合いが異なるのか。地域で活動する団体の構成員も地域住民である。曖昧な「地域」という言葉を用いることで、やりたいことが見えなくなる。また、「主体的に支えあえる」だと住民に責任を転嫁しているようにも受け取れるので、例えば、「地域住民が相互に支えあえる『地域づくり』を支援します」としてはどうか。

【事務局】

重点テーマ③の取組方針イに関する御指摘については、2040年を見据えた場合、福祉や介護分野に関連する産業が重要であると考えている。2030年度までの長期ビジョン(基本計画)では重点テーマの取組方針で具体的な産業分野は明示せず、下の階層の施策の中で示していく。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

残りの時間は、重点テーマ②、③両方に関わる御意見を頂戴したい。

【八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏】

重点テーマ③の取組方針イで「ウォーカブルなまちづくり」とあるが、初めて聞いた。歩きやすいまち、それとも歩きたくなるまちのどちらを指しているのか。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

「自然に歩きたくなるまち」ということだったと記憶している。

【事務局】

「自然に歩きたくなる街並みや遊歩道」を意図している。

【八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏】

今、街並みは疲弊しており、魅力的な商店街ではなくなっているところも多い。「歩きたくなるまち」ということであれば、広場等の目的地の整備のみならず、そういった街並みの再生を図ることも重要と考える。また、空き家対策も兼ねて、古民家の再生利用の支援制度や税制優遇を検討いただきたい。制度設計の際は、オーナーや組織ではなく、事業を始める人に優遇措置がなされるように留意いただきたい。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

「ウォーカブル」はこの項目に合致しないと考える。事務局が意図している英語の意味はないため、別の表現で代替すべきである。

会議の内容  
( 6 )

【明星大学教授 河合美香 氏】

重点テーマ②は、「桑都文化」や「産学官民連携」等で八王子市らしさが表現されている一方、重点テーマ③の取組方針は、例えば近隣市が言っていたとしても違和感がなく、八王子市らしさが表現されていない。八王子ならではの強みを盛り込む内容にできないか。

【八王子にほんごの会役員 宮武茜 氏】

「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」というメッセージは、よく目にしている。市民も外から来る人も、歩きたくなるような街を目指すとあるが、「具体的にこんなイメージを考えている。市民や企業、学校、みんなで協力しましょう！実現のための支援は惜しみません。」という、市からの強いメッセージが欲しい。

桑都文化を感じられるよう、小学生が蚕を育てて作った作品を活用する。統一感のある街並みにする。のこぎり屋根の織物工場なども、壊さずに移転するなど、市全体が共通のイメージをもって街づくりをすることが必要ではないか。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

そういったものを活用して自然に歩きたくなる街並み、景観づくりというニュアンスがどこかにあれば、「ウォークアブル」の意味がもう少しはっきりするのではないか。

【東京都立大学教授 市古太郎 氏】

重点テーマ③の「テーマに込めた思い」で「一方で、東日本大震災を」とあるが、研究室で地域の方のお話を聞く限り、「令和元年台風19号」が防災意識の高まりの契機となっている印象がある。これがそのまま文章として残るのであれば、「令和元年台風19号」に言及する方がよりリアリティがあるのではと思った。

【八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏】

重点テーマ②の取組方針で「豊富な資源を活用した地域主体の観光まちづくり」とあるが、八王子市は山を抜きに、観光客に訴えることができないのではないか。以前も発言したが、高尾山が一般的な観光で終わらせていることが勿体ない。これからは、行政がバックアップして登山のための観光コンテンツや体験型ツアーを開発して裾野を広げ、プラスアルファの集客、交流人口の拡大を目指していければよい。また、高尾駅北口の観光のイメージを高めたい。

次第4 事務連絡

事務局より、事後の意見聴取方法は後日案内すること、第7回懇談会は、3月24日(木) 19:00～21:00 に学園都市センター 第5 セミナー室で開催すること、資料に関しては事前配付を予定していることを説明。

次第5 閉会

以上